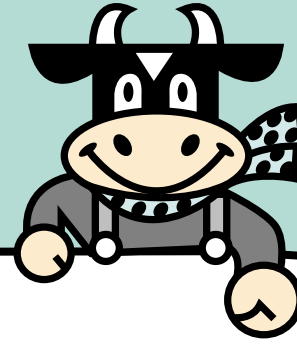




ワンポイント・アドバイス



子牛の下痢症

〜特に哺乳期における予防を中心として〜

短く暑い夏も終わり、朝・晩の冷え込みも厳しくなってきました。こんな時期には、下痢症・肺炎といった子牛の病気の王道ともいえる病気が多発します。子牛ではまず下痢を起し、それから肺炎へと進行するケースが多いようです。先に肺炎を発症したり、それぞれ単独に起こることもあります。いずれにしても下痢症と肺炎は子牛の育成上、最も注意しなくてはならない病気です。これらの病気によりその後の発育にも大きく影響が出て、特に死亡が続けば、牧場の後継牛も減ってしまいます。そこで今回は下痢症の予防に重点を置いて説明したいと思います。

子牛の下痢の原因は様々で、大きく感染性の下痢と非感染性の下痢に分けられます。感染性の下痢として、大腸菌、サルモネラ菌などによる細菌性下痢症、ロタウイルス、コロナウイルスなどによるウイルス性下痢症、コクシジウム、クリプトスポリジウムなどによる寄生虫性下痢症などがあげられます。また多くの感

染性下痢症は、これらの病原体の混合感染が見られます。非感染性下痢症として、抗生物質の連用による腸炎及び正常細菌叢の崩壊、乳糖不耐症、乳脂肪中の脂肪酸組成の異常などがあります。これら子牛の下痢症のほとんどは飼養管理の失敗により発生します。

子牛の哺乳期における管理でまず大事なことは、清潔な分娩場で分娩させることです。分娩場がない場合は極力早くハッチに移動させます。子牛の体をタオルなどで拭き乾燥させてから、少なくとも2〜3時間以内には母牛から隔離させることが重要です。そこで、次に初乳を飲ませます。子牛は胎盤の構造上、胎内にいる時に母牛からの移行免疫は得られません。そこで、免疫抗体の多く入った初乳の給与が重要となってきました。方法は、出生後2時間以内に第四胃の容量である2Lを給与し、12時間以内にさらに2L給与します。自力で哺乳した方が、抗体の吸収は良いようですが、吸引力の弱い子牛や哺乳を拒否する子牛は、4時間以

内にカテーテルにて強制給与します。初乳の給与は3日間続けます。このとき給与する初乳が乳房炎であったり、血乳であったりしてはいけません。初乳といえどもPLEスタターで検査し、異常乳であれば給与せずほかの牛の凍結初乳を給与します。解凍は抗体の変性を防ぐため、50度以下で加温します。初乳の給与において、母牛につけて給与する方法は簡便ですが、初乳の給与量・品質がわからないので推奨できません。

子牛の収容場所は、換気の行き届いたカーフハッチか独房が良いでしょう。敷料を十分に入れ、子牛同士の接触がなく乾燥していることが重要です。水はけをよくするため、傾斜をつけ、すのこを入れた方法もあります。また、厳寒期でも雪が吹きこまず作業がしやすい場所に乾燥した敷料を十分に入れておけば、ハッチでも十分に飼育できます。ハッチは子牛が入れ替わるたびに消毒をします。消毒不十分では、病気が蔓延する可能性が非常に高くなります。ジェットウォッシュ

ヤーで水洗いし、立てた状態で日光消毒し、使用前に消毒剤、色素剤等で消毒します。間違っても、牛舎の通路などには子牛をつながないで下さい。換気が悪く、親牛の糞尿まみれではたとえ病気にならなくても、正常には発育しません。

通常の下痢は乳首のついた哺乳バケツ、哺乳瓶で給与する【図1】のが良いでしょう。バケツからのがぶ飲み【図2】では食道から第三胃につながる食道溝が完全に機能せず、乳汁の一部が第一胃に飲下されるため消化障害の原因になったり、口角周囲がかぶれたりします。またストレスの指標である子牛同士の相互吸引も乳首哺乳に比べて起きやすいです。さらに乳首哺乳において、時間短縮の目的で乳首の穴を拡張させて給与している場合に相互吸引がより多く見られます。相互吸引は雑菌汚染、下痢の発症、毛球症などの原因となりますので注意が必要です。

水は自由飲水とし、新鮮かつ清潔な水を給与してください。また、先ほども言いましたが、子牛の下痢症の原因は様々です。下痢をしたらすぐに抗生物質ではなく、まず体温を測り、原因を大別してから処置を行うのがよいでしょう。

これらのことは、子牛の哺乳期における管理の基礎中の基礎です。子牛共済の始まる前に、もう一度哺乳期の子牛の管理についてじっくり考えてみてください。

要 因	概 要
年 齢	高産次牛は初産牛より質が良い
搾 乳 回 数	初回搾乳の初乳が最も質が良い
乾 乳 期 の 長 さ	乾乳期が40〜45日未満だと抗体量は減少
分 娩 前 搾 乳 ・ 漏 乳	分娩前に搾乳、漏乳すると抗体量は減少
分 娩 前 の 栄 養 状 態	分娩前に低蛋白だと抗体量は減少
農 場 で の 在 籍 期 間	在籍期間の長い牛の初乳がその農場の細菌叢に対して有効な抗体を含む

* 初乳の品質に影響を及ぼす要因



図2 がぶ飲み哺乳



図1 乳首哺乳